

26PB-am188

服薬アドヒアランスに関する実態調査

○篠原 ひろみ¹, 大道 恒輝¹, 百 賢二¹, 高木 彰子¹, 細川 幸二², 中村 均¹, 濃沼 政美¹ (¹帝京平成大薬, ²あさひの丘病院薬)

【目的】服薬アドヒアランス (Medication Adherence, 以下 MAd) の低下は、QOL の低下や医療費の増加に影響することが知られている。しかしながら、糖尿病や高血圧などの慢性疾患における MAd の遵守割合は、50-90%という報告もある。これまで、MAd の改善のために、様々な研究が行われているが、MAd の測定方法に焦点をあてた報告は、あまり見当たらない。そこで本研究では、MAd の研究報告を網羅的に調査し、MAd の測定方法についてデータをまとめたので報告する。【方法】PubMed を用いて論文を検索した。「Medication」、「Adherence」および「Measurement」をキーワードとし、1975 年 11 月～2016 年 5 月の間に報告された学術論文のうち、症例報告、総説を除外した原著論文を抽出し、研究対象論文とした。得られた研究対象論文を分析し、MAd の評価方法や、研究デザイン、また対象疾患、対象人数などのデータを抜き出し、スプレッドシートにまとめた。【結果】192 論文が解析対象論文となった。MAd の測定方法としては、質問票や、患者の自己報告、また医療従事者や家族による報告が多かった。また、客観的な測定ツールとして服薬管理デバイスを用いたピルカウントデータなども存在した。服薬管理デバイスとしては、ボトル状になっている容器に薬を入れ、ボトルキャップを開閉した日付と時刻を記録できる MEMS (medication event monitoring system) が多く使用されていた。また、1 論文の中に複数の MAd の測定を用いている論文が 26.6%存在し、1 論文で平均 1.3 件の MAd 測定法が用いられていた。なお、対象疾患は HIV (57 件) が最も多く、次いで高血圧 (20 件)、糖尿病 (14 件) の順であった。【考察】今回、MAd の測定方法に関して網羅的な調査結果を得ることが出来た。今後、MAd 関連研究が実施される際に、本結果が利用されることを望む。